

日本健康心理学会メールマガジン No.45



2016年4月22日 第45号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.40 同志社大学 余語真夫先生

1) 学会からのお知らせ <http://jahp.wdc-jp.com/>

■年会費納入有無のお知らせ(財務委員会より)

メルマガ冒頭に、会費納入済みマークが入るようになりました。今年からは、ご納入頂いた方のみ学会誌をお届けできます。年次大会の発表にも会費の納入が必要です。3年間未納が続くと会員資格を失います。どうぞお早めの納入を。

■「研究部会制度」ならびに「国際学術雑誌投稿支援制度」について(研究推進委員会より)

平成28年4月より、日本の健康心理学研究のプレゼンス向上を目的に、新たな研究部会制度と国際学術雑誌の投稿支援制度を設けます。前者は、以前よりの研究部会制度を拡張したものであり、多様な研究部会の活動を行えるようにしながら、かつ研究部会に属する研究組織の競争的資金の獲得を支援する内容になります。後者は、本学会員の健康心理学分野の国際学術雑誌への掲載を促すための支援制度であり、対象となる国際的な学術雑誌への論文の投稿にかかる経費を支援します。2つの制度の詳細と申請の書式などは、学会ホームページをご覧ください(更新予定)。研究推進委員会URL：<http://jahp-research.blogspot.jp/>

■日本健康心理学会第29回大会(岡山)

大会ホームページ内の「いざ!岡山へ!!-岡山大会の魅力-」において以下の内容が更新されました。

- ・晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーンPV
- ・大会準備委員会企画(2)
- ・1号通信送付のご連絡
- ・岡山の魅力(4)-瀬戸大橋・鷺羽山-

詳しくは <http://jahp.wdc-jp.com/conf/29th/okayama.html>

第29回大会URL：<http://jahp.wdc-jp.com/conf/29th/>

2) 健康心理学コラムvol.40

「感情と健康」

(同志社大学心理学部 余語真夫先生)

日本健康心理学会第1回大会が開催された1988年、私は学部生会員として本学会に入会した。大学入学当初には存在しなかった新しい学会が登場したことで、「心理学は生きている」と私は確信したのを覚えている。大学院に進学後の学術論文デビュー作は健康心理学研究に掲載していただいた。

1995年から1996年に米国のベネベーカー博士の研究室で在外研究に取り組んだ。ベネベーカー教授は健康心理学や臨床社会心理学のマイルストーンとなる斬新な実験研究を実行し、論文を発表しているところであった。帰国後、日本人を対象にした筆記療法の効果検証実験を実施してきた。

私の胸中で一段落着いたのは2008年にBritish Journal of Health Psychologyに論文が掲載された時である。

私の研究に通底する主題は「感情」だ。

「感情」は精神病理にも生活習慣病や心身症にも共通する現象だ。

とはいえ「感情」の定義は研究者によって違い、曖昧だ。

「感情」とは? 「感情」制御とは? 「感情」が変わるとは?・・・疑問が尽きない。

さらに近年、「感情」と「認知」という概念区分も恣意的であり、脳科学的事実に反することが知られるようになってきた。

健康心理学の知識体系が解体・再構築される変革期に我々はいる。

特に若手の会員諸氏に告ぐ。

「健康心理学」には未知が山積みだ。

既存の理論や研究知見を根底から疑えば、新しい世界が拓かれる。

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます
<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>